

高砂市子ども・子育て・若者会議 第1回 若者部会  
議事録

開催日時	平成29年6月6日(火) 午後7時00分～午後8時30分
開催場所	高砂市役所 南庁舎 5階大会議室
出席者 (委員)	高砂市子ども・子育て・若者会議 若者部会委員 7人
欠席者 (委員)	高砂市子ども・子育て・若者会議 若者部会委員 1人
事務局	こども未来部長、未来戦略推進室長、教育推進室長、経営企画室主幹(政策・行政管理担当)、未来戦略推進室主幹(男女共同参画・女性活躍推進担当)、未来戦略推進室主幹(若者・青少年育成担当)、子育て支援課長、コンサルタント事業者 他
傍聴者	なし
議題	高砂市若者の生活に関する調査(案)について
資料	<p>(事前配付資料)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開催案内</li> <li>2. 高砂市子ども・子育て・若者会議 若者部会 名簿</li> <li>3. 高砂市若者の生活に関する調査(案)</li> <li>4. 若者の生活に関する調査に対するご意見・ご提案(様式)</li> </ol> <p>(会議当日配付資料)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会議次第</li> <li>2 (資料1) 子ども・若者育成支援推進法について</li> <li>3 (資料2) (仮称)高砂市子ども・子育て・若者支援事業計画の期間について</li> <li>4 (資料3) 新計画の体系(案)</li> <li>5 (資料4) (仮称)高砂市子ども・子育て・若者支援事業計画策定業務スケジュール(案)</li> <li>6 (資料5) 県下における「子ども・若者育成支援推進法」に基づく支援計画の策定状況</li> <li>7 (資料6) 浜松市 子ども・若者支援プラン(抜粋:第4部 若者支援)</li> <li>8 (資料7) 「若者の生活に関する調査」について</li> <li>9 (資料8) 各委員からの「若者の生活に関する調査」に対するご意見・ご提案</li> <li>10 (資料9) [若者アンケート] 抽出人数表(地区別人数別人口)</li> <li>11 (資料10) 若者支援・相談窓口案内</li> <li>12 (資料11) 若者の意識に関する調査報告書(抜粋:調査票)</li> </ol>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>1. 開会 (事務局紹介) (資料確認)</p> <p>2. 部会長あいさつ (発言内容省略)</p> <p>3. 委員自己紹介 (発言内容省略)</p>
部会長	<p>それでは議題に入りたいと思います。議事の高砂市若者の生活に関する調査については、事前に委員の皆さまにご意見、ご提案のお願いをしておりました。事前にご意見をいただいたものについては、本日事務局から皆さまの机の上に資料8としてお配りしておりますので、その資料を参考にしながら議論に入りたいと思います。まず事務局から資料の説明を受けて審議に入りたいと思います。それではよろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>4. 議題 高砂市若者の生活に関する調査について資料を説明</p>
部会長	<p>資料に関してご質問がございましたらお受けいたします。何かありませんか。(質問なし)</p> <p>もしございましたら、途中でも結構ですので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは審議を始めていきたいと思います。事前にご意見、ご提案をいただいておりますので、資料8を参考に議論をしていきたいと思います。番号順にご意見をおうかがいしていきたいと思います。まず1番目の意見について、他の委員さんのご意見はございますか。</p>
委員	<p>後半の調査項目は、引きこもりなど掘り下げた内容になっていきますので、重くなるのはさすがにしかたないのではないかと思います。</p>
部会長	<p>重くてもしかたがないという意見が出ました。このことに関して事務局の考えをお願ひします。</p>

事務局	<p>先ほど片山研究員からも説明いたしましたが、内閣府のデータとの比較ということもありますので、基本的には質問数を変えたくはありません。今おっしゃったように、引きこもりの状態を知りたいがための設問になってくるため、ちょっとそこからガラッと質問内容が変わってきてしまうのですが、そこも比較というかたちになります。しかし、表現等で分かりにくいところは今後議論の中で直していきたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。</p>
部会長	<p>では、2番の質問に入ります。2番は引きこもりに対する質問が多いので、表題を変えてはどうかというものです。このことに関して事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>調査の目的としては引きこもりの状態を知りたいのですが、逆に、自分にアンケートが来た時に引きこもりに関する調査と書かれていたら、自分が引きこもりと知っているのかなと懐疑的になってしまう部分を避けたいため、表題はオブラートに包んだような柔らかな表現にならざるを得ないのかなというところで、ちょっと分かりにくくなっていると思います。読み進めると、こういう状態が知りたいのだなということは理解していただけるのかなと思います。「引きこもり」という言葉をダイレクトに出すことは避けたいとは思っています。</p>
部会長	<p>3番目の質問に入ります。インターネットからの回答ツールがあっても良いのではないかというものです。このことに関して事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>このご指摘は非常に参考になりました。確かに今のかたちだと、ポストに投函しなければならないのか、と思う方々もいらっしゃると思います。今、庁内で検討しておりますが、電子申請というシステムを使って設問をインターネットで回答できないか検討したいと思っています。それができれば調査票の表にQRコードを貼り、ここからも回答できますよ、という方法をとればと思っています。今、「できます」という回答はできませんが、インターネットでの回答ができるように検討中です。</p>
部会長	<p>続きまして4番目の質問にいきたいと思っております。自分の周りで支援を必要としている人がいれば、その方の情報提供をお願いしてはどうかという問題です。ご意見がございましたらどうぞ。</p>
委員	<p>引きこもりになった時でも、家族との関わりは続いていると思っております。本人では</p>

	ない視点から見たその人を知ることができると良いと思います。
部会長	賛成ということですね。
委員	はい。
部会長	このことに関して事務局の考えをお願いします。
事務局	調査票の最初のページ、ご協力をお願いというところで、ご記入にあたってのお願いとして四角で囲ってあるところの1番、この調査はできる限り宛名の方ご本人がご記入ください、と書いてありますが、先ほどのご意見を聞くと代筆でも良いのかなと思います。ご本人からの聞き取りで、お父さん、お母さんなど保護者の方が書かれるという場面もありますよね。ご家族の方の代筆でも構いません、という表現にさせていただこうと思います。
部会長	続きまして、5番目の質問です。発達障害を持っている可能性があるので、代理回答も可としてはどうかという質問です。このことに関して事務局の考えをお願いします。
事務局	先ほどと同様に、代筆も可能としたいと思います。
部会長	6番目の質問です。個別の対応や相談を希望する方への連絡先、相談先を記載してはどうかというものです。
事務局	これもこちらが気が付かなかったご提案です。ご提案を受けて、資料10のような窓口一覧を同封して、こんな相談場所があるのだと分かるようにしたいと思っています。ホームページには載せていますが、より多くの若い人たちに相談窓口があるということをお知らせするためにも同封したいと思います。ありがとうございます。
部会長	続きまして7番目の質問です。回答項目が縦に並んでいるのが気になりました、というご意見です。このことに関して事務局の考えをお願いします。
事務局	回答を横に並べた方が見やすいですか。最近、市が行う調査は縦に並んでいるのですが。

委員	最初に見た時に違和感がありました。
委員	私は、別にそこまで見にくくはありませんでした。
事務局	変更することは簡単なので、ご希望があれば変更します。
委員	流れが統一してあれば問題ないと思います。
委員	私は、最初からこういう書き方なのだなと思って、そのまま読み進めました。
委員	3列になれば横が見やすいと思いますが、2列なら縦でも良いのかなとは思いますが、ただ、問1、問3は1行で横に並んでいますが、問2でいきなり縦に並ぶと、違和感があるかないかといったら、あるという方もおられるかもしれません。
部会長	回答用紙と質問用紙が別ではありませんので、本質的な問題ではないとは思いますが、やはり見にくいというご意見がございましたらお願いします。
コンサルタント	例えば、7ページ、問18の8番をご覧いただきたいのですが、これは1行書きで全部縦に並んでいます。縦に設問を並べるのが一般的ではあります。
事務局	コンサルタントさんは多くのアンケートを作成されていると思いますが、だいたいこのような並べ方ですか。
コンサルタント	はい。8割以上はこのかたちです。
部会長	では、このままでということをお願いします。 続きまして8番目の質問です。社会的養護経験者であるかどうかを尋ねてはどうかという提案です。ご意見がございましたらお願いします。
委員	社会的養護の経験があるかどうかを聞くのは賛成です。そういう人たちが自主的に子育てや手伝いなどをしてくれたらありがたいと思います。
部会長	他にございますか。

委員	社会的養護経験者というのはどういう方のことをいいますか。
部会長	例えば、養護施設で育った方というニュアンスでよろしいでしょうか。
委員	これは私が書いた意見ですが、ファミリーホーム、児童養護施設、里親さんの元で育った人たちを想定しています。例えば、今、路上生活をしている若者の中に社会的養護経験者がかなりの数いるということもいわれていて、対人関係の難しさ等から社会的養護経験者の自立の困難さが指摘されています。その意味では引きこもりと何か関係があるかもしれないという気持ちで書かせていただきました。
委員	市役所では、社会的養護経験者に対する支援は何かされているのでしょうか。
事務局	現在、普通に生活されているのであれば支援の必要はないと思います。そこで困難な状況にあって、こういう支援が必要だという具体的な支援内容があれば、対応できることもあるかもしれません。市では対応できず、県に頼らなければならないところもあると思います。困っている内容によります。
事務局	進学したいという希望がある方で、こういった施設に入っておられる方に対して受験費用を支援する制度がありませんかという相談にお応えしたり、市の実施している支援をお伝えするかたちで支援をしています。生活保護など生活に対する支援、進学など学習に対する支援など、支援は多岐にわたります。
部会長	せっかく調査をするわけですから、これがもし何かの関係性が分かるのであれば一つの大きな発見となると思いますので、可能であれば設問に入れていただきたいと思います。
事務局	この設問を付け加えるとするとどこに入れたら良いでしょうか。
コンサルタント	施設入所者経験者に限定すると、対象者がかなり限られるように思いますが、もし入れるとしたら7ページの間 18 の 8 で、相談機関に相談しましたかとか、間 18 の 9 で、相談機関に関しての自由意見を入れるところがございます。もう一つ、この下の項目に何か支援を受けられた方のその後の生活を聞くような内容を入れることもできると思います。
部会長	あるいは間 12 に養護施設で育ったとか、里親さんのところで育ったというよう

	<p>に追加項目を入れるのも良いと思います。あまりそれを目立たせるのもどうかと思いますので。</p>
事務局	<p>最初の基礎的な質問の中に入れるということですね。</p>
部会長	<p>そうですね。</p>
事務局	<p>それでは問 12 に入れるかたちで検討いたします。</p>
部会長	<p>9 番目にまいります。情報提供の機関名を記してはどうかということです。このことに関して事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>この質問は良いと感じていただいていますので、訂正する必要はないと思いますが、具体的な機関名は先ほどご説明いたしました資料 10 でカバーできると考えていますので、設問のほうではなく、お知らせを入れるというかたちで対応します。</p>
委員	<p>資料 10 についてですが、具体的な受付時間を書いたほうが問い合わせしやすいと思います。</p>
事務局	<p>受付時間については、分かる範囲で書きたいと思います。受け付けている相談内容については、わかりやすいように項目別に分けて、大まかにお示ししています。</p>
委員	<p>引きこもりの方が集まる場所、居場所などのチラシを入れても良いと思います。また、若者しごと倶楽部サテライト播磨は、若者サポートステーションになっていますので訂正をお願いします。</p>
事務局	<p>修正いたします。また、引きこもりの方の居場所については、ご教授いただきたいと思います。</p>
委員	<p>分かりました。チラシを集めてまいります。</p>
部会長	<p>10 番目の質問にまいります。若者というのは 25 歳くらい、せめて 29 歳くらいまでが若者ではないかというご意見です。</p>
委員	<p>できれば年齢の幅を狭めたほうが良いというご意見ですが、逆に 39 歳のままか、</p>

	<p>できることならもう少し広げていただいたほうが良いかなということを考えています。その理由としては、引きこもりをしている人の年齢が上がっているということもあり、やっぱり三十歳代が引きこもりの平均年齢ということもありますので、そういうことを考えると 39 歳のままで良いのではないかと思います。あとは、私は若者しごと倶楽部にいたこともありますが、45 歳までが若者の範囲でした。年齢幅は狭くするよりは広すぎるほうが計画になるにしても良いと思います。計画は 29 歳までだと思いますが、そうしたら狭い人数の方しか支援できないことになりますので、できれば支援の幅を広げていただいたほうがありがたいと思っています。</p>
事務局	<p>最初にご説明いたしました通り、内閣府の調査もありますし、当初、全体会でもご説明しましたが、高砂市の計画でも 39 歳以下の方を若者と定義している関係上、年齢層についてはこのままとさせていただきたいと思っています。先日、新聞にも載っていましたが、高齢者の引きこもりが増えているという九州のほうの調査もありました。そういった全国的なデータも参考にしたいとは思いますが、今回の調査は内閣府の調査と比較するというので、年齢の幅はこのままにさせていただきたいと思っています。</p>
部会長	<p>続きまして 11 番、回収率を上げるために、あなたのアンケートがこのように参考になりますと伝えるべきだと思います、というご意見について何かございますか。</p>
委員	<p>自分が出した意見がどのようになっていくか、誰が見るのか、アンケート回収後、誰がそれを見て使っていくかということを知ることができるのは良いと思います。</p>
部会長	<p>このことに関して事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>調査票の 1 ページ目、ご協力のお願いの文面が堅すぎますので、ご意見を活かすかたちで、高砂市の若者の実態を調べて計画に活かしていきたいということをお伝えしたいと思います。また、この調査は若い方に送るので、高砂市のぼっくりんというマスコットの絵を入れたり、見やすい工夫をしたいと思っています。</p>
部会長	<p>続きまして 12 番目のご意見です。前半部分はスマホやインターネットでということでご回答いただきましたが、後半部分に回収方法や回答に対するお礼を入れたり、報告をしたりすることも必要だと思いますというご意見です。これに関して何かございますか。</p>



委員	<p>自分は引きこもりになったことはありませんが、一回、足を骨折した時に宿題などをポストに投函しなければならなかったのですが、家族が忙しくて頼むこともできず、提出することができなかったことがあります。その時は先生に頼んで提出期限を遅らせてもらったのですが、スマホやインターネットなど、外出しなくても提出できるようにしたほうが良いという意見はとても良いと思います。</p>
部会長	<p>このことに関して事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>インターネットによる回答については検討いたします。回収結果については、市のホームページで公開させていただきますので、結果についても公表いたしますという言葉が調査票の前のご協力をお願いのところに記載させていただきます。</p>
部会長	<p>13番目のご意見です。この間について相談したい、といった問い合わせ先についてですが、これは先ほどの一覧を付けるということですね。</p>
事務局	<p>はい。一覧を同封することで対応いたします。</p>
部会長	<p>14番目のご意見です。紙ベースではなく、インターネットで回答できるようにということですので、これも検討するということですね。</p>
事務局	<p>はい、検討いたします。</p>
部会長	<p>続きまして、15番目からですが、15番目から22番目までは部会長と副部会長からの質問になります。これは後回しにしたいと思います。23番目のご意見、目的を明確にしたほうが良いということです。これについても先ほどご意見いただきましたので、これについてもこれで終わらせていただきます。</p> <p>次の1枚もののご意見ですが、問7、問9、問10、問14、問15、問18とありますが、何かご意見ございましたらお出しいただきたいと思います。問15と問17は、「現在、ふさわしい仕事に就けている」場合の選択肢はどうするかといったように、同じ意見となっています。</p>
事務局	<p>問7のご意見を活かそうとすると、この中ではなくて、問7の1のようにして、なぜそう思いますか、と書く欄を設ける方法があると思います。調査全体の回答をどのように活かすのかということですが、多分、内閣府が考えているのはどのような生活水準の方がどのような回答の傾向があるのかということを探ろうと</p>

	<p>しているのかなとは思いますが、なぜそう思うのかというところを回答していただいた場合、その回答をどう活かすのか、調査の目的からするとどう持っていったら良いのか考えにくいところではあります。</p>
委員	<p>引きこもり限定のアンケートと考えて良いのであれば、そこまで聞く必要もありませんし、若者が対象であれば、若者がどのような基準で生活水準が中だとか上だとか下だとか考えているのか知ることにはできると思います。質問項目を増やすというのは賛成ではありませんが、他のことで活用できるなら良いとは思いますが。</p>
部会長	<p>他の委員さんもお意見がございましたらお願いします。</p>
委員	<p>調べて見たら、面白い結果が得られるような気はします。それが全体の趣旨としては離れて、興味が別のところにいるのかなとは思いますが。たしかに人の価値観によってずいぶん違うとは思いますが。例えば、海外旅行に行けないということについても、どう答えるか人によって異なるとは思いますが。私自身は国の調査と一緒になので仕方がないとは思いますが、ここまで細かく分ける必要はあるのかなというのが正直な気持ちです。「下の下」を選ぶ時の人の気持ちを考えると、5段階で良いんじゃないのかなと思ったりはしました。ここまで聞くのであれば、本当に今おっしゃっているような回答欄が一つあれば、厳しい質問に対しての若者の気持ちが分かると思います。</p>
事務局	<p>問7の1で、なぜそう感じますかということで自由記載欄を設けることはできますか。</p>
コンサルタント	<p>自由欄を入れることは可能だと思います。ただし、問1から問9については、基本的な属性ということで、属性とクロスするための基本的な項目になりますので、趣旨としてはよく分かるのですが、基本的な内閣府の項目としてはシンプルなかたちで構成しているということだと思います。</p>
委員	<p>内閣府がどこを使って、どういう分析をされているのかという内容は公開されているのでしょうか。</p>
コンサルタント	<p>問7については、生活水準との比較分析というかたちになると思います。主観的な生活水準にはなるとは思いますが、それと各選択肢との分析を進めていくかたちになると思います。所得段階というかたちで所得を聞くやり方もあると思います。</p>

委員	<p>が、こちらは、若者ということで所得がない方たちもいらっしゃいますので、全体的に家庭の生活水準を聞いているという内容になっていると思います。</p> <p>私のほうからも一点気になる点があります。技術的な問題として、自由記述があっても、ほとんど分析には活かされなくて、かつ費用がかかると思いますので、できたら削除したほうが費用面でも効率的な調査になるのかなと思います。自由記述を入れるのはインターネット調査であれば簡単ですが、紙ベースのものではとても大変な作業になるのかなという気はします。</p>
委員	<p>いろいろなところに関連するというデータの分析をしているなら、その効果を比べることもできるのではないですか。</p>
部会長	<p>主観的なところで、例えば、自分がどの水準にいたかというのが将来にどう関係していくかということはよく研究で取り上げられていますので、設問自体はあっても良いと思います。ただし、文字で聞いたとしても、それはほとんど分析にはつながらないと思います。</p>
委員	<p>あまりはっきりしたことは分からないということですね。もしもっと分かるのであればということですね。</p>
部会長	<p>では、自由欄は、なしという方向でよろしいですか。</p>
委員	<p>分かりました。</p>
部会長	<p>次は問9について、通院や入院をしたことを聞く質問の趣旨についてのご質問です。このことに関して事務局の考えをお願いします。</p>
事務局	<p>けがや病気と引きこもりの因果関係を調べるためのクロスをかけるための基礎的な調査項目だとは思いますが。</p>
コンサルタント	<p>そうですね。ここは健康状態と引きこもりの状況とのクロス分析をしていくかたちになるかと思います。問9までが基本的な属性となっています。</p>
部会長	<p>ではこれもこのままでよろしいですね。</p>

事務局	はい、了解しました。
部会長	問 10 の「現在、学校に行っておられますか」、問 14 の「現在、働いておられますか」という問いを関連づけて一つの質問にするほうが良いのでは、という質問についていかがでしょうか。
コンサルタント	これはダブルスタンダードといいまして、学校に関することと就労に関することを同じ設問の中で同時に聞くと水準がふたつになってしまいますので、分けたほうが良いと思います。
部会長	次は問 15 ですが、現在、ふさわしい仕事に就けている、の選択肢がないというという質問についていかがでしょうか。
委員	仕事をしていないことが前提の質問というのは失礼かなと思いました。
部会長	そうですね。「している」という選択肢を増やすか、あるいは、「はい（もう就いている）」というかたちにするというのでしょうか。
委員	「自分の夢を実現した」とか、「すでに就いている」という選択肢があっべきだとは思いますが。
委員	夢の途中というような状況ですかね。安定していらっしゃる方もおられると思います。
事務局	現在、就労されている、好きな仕事に就いているという回答で完結できる方が、ここの質問で迷ってしまうわけですね。
委員	問 15（1）に、いつか自分に～という設問がありますが、そこに、「すでにふさわしい仕事に就いている」という選択肢を入れるのは難しいですか。
コンサルタント	選択肢自体を変えると、内閣府との比較ということになると少し違和感があるかなと思います。ただし、設問で、現在、自分にふさわしい仕事に就いている、という聞き方は可能だと思います。そこで「はい」から「いいえ」までの選択肢を選んでいただくこともできると思います。

委員	<p>(1) から (4) までを (2) から (5) にして、(1) あなたは現在、自分にふさわしい仕事に就いていると思いますか、という質問を入れて、そこで「はい」と「いいえ」で答えるようにして、「いいえ」の方は (2) から (5) の質問まで答えてくださいとすれば、自分にふさわしい仕事に就いていると思う人は (1) を選んでそこで完結する。そうでない人は、(2) から (5) に進んでいくようにすれば、就いていると思っている人が何パーセント、そうでない人は残り。就いていないと思っている人のうち、この4つの設問に対してそれぞれ何パーセントという数字が出てくるのかなとは思いました。それが内閣府との比較でどうなるか分かりませんが。</p>
委員	<p>1 番目を追加するとなると、今の 1 番、2 番は引っかけからないと思いますが、仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない、というのと、現在ふさわしい仕事に就けているという、3 番、4 番は現在就けている人でも考え方は変わってくるのではないかと思います。</p>
部会長	<p>この間がこういう意見に対してどう思っていますかということを探っている間なので、就いているか、就いていないかではなくて、いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思うと言っていることに対してあなたはどうなの、ということですよ。自分も同感だよとか、いや、同感できませんよということを問うているので、このままで問題はないと思います。ただし、今、委員の皆さんからご意見が出ているように、自分がすでに仕事に就いている場合はどうしたら良いのと悩まれることはあるかもしれませんが、問い自体はおかしくないような気がします。</p>
事務局	<p>今日お渡しした資料 11 の 41 ページ、42 ページを開いてください。内閣府の設問と今日お示した市の案と違うところがあります。市の問 14、4 ページですが、「あなたは現在働いておられますか」一つ〇を付けてくださいというところと、41 ページの「あなたは現在働いておられますか」がリンクしています。国のほうは、現在働いていない方を Q14 へ進ませて、働いているという選択肢のどこかに〇を入れた人は 42 ページの Q17 の「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」という設問に引っ張って行っています。今の仕事がふさわしいと思っていないのではないかとこのところが出てるように思います。</p>
委員	<p>問の文言が分かりにくい感じですね。混乱をきたしてしまっているのではないかと思います。</p>

事務局	1 番の前に、「すでにふさわしい仕事に就いている」という設問を足すと、そこで「はい」と答えた人は次の 4 つの設問にいきません。「すでにふさわしい仕事に就いている」という選択肢を入れると国との比較ができなくなるかもしれません。
部会長	仕事に就いている人はきっと「はい」と回答すると予想しているのですかね。
事務局	国のほうの設問でいくと、そういうかたちになりますね。
部会長	そうなると、あまり変えないほうが良いかもしれませんね。
事務局	指摘されると矛盾は感じますが、比較ができない可能性があります。
部会長	今は検討するという事で次に進んでもよろしいでしょうか。
事務局	問題なく比較できるのであれば検討したいと思いますが、まったく比較できないということであれば調整はできないと思います。
部会長	続きます、先ほど飛ばしました部会長、副部会長からの質問です。15 から 21 は私たちが出したもので、かつ内閣府と同じものを使っているということを知る前でしたので、今回は修正なしで結構です。22 番は副部会長からのご意見ですが。
副部会長	これも内閣府と同じものを使うのであれば文言は変えないほうが良いと思いますので、結構です。
部会長	では、これで全てのご意見に対して審議いたしました。今回いただいたご意見でアンケートに反映できるものについては反映していくという方向で修正いたします。修正については部会長、副部会長、事務局に一任いただきたいと思います。修正後のアンケートは各委員さんに後日、事務局から郵送していただきます。今回のご審議の内容で若者部会としては、アンケート案を承認したいと思います。委員の皆さまご異議はございませんでしょうか。
一同	異議なし
部会長	ありがとうございます。ご異議がないようですので、これで高砂市若者の生活に関する調査についての審議を終わります。事務局からその他ご報告がありました

事務局	ら、よろしくお願いいたします。
部会長	5. その他 今後のスケジュールについて説明  委員の皆さまから他にございませんか。ないようでしたら、これで審議を終わりたいと思います。本日は長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。これで本日の部会を終了いたします。  (終了)